

■菅野八郎 民衆思想家。強烈な“身上市り”願望で、諸問題を引き起こし、流罪、入牢になるもくじけず、“世直し老大明神”に。

かんのはちろう

浮世床・・・1813＝ 陸奥国伊達郡金原田村で、中農の百姓和蔵の末子に生まれる。

水野忠成老中1818＝ 5歳：

漢学者熊坂台州に学んで、産子間引を防止すべく江戸表に直訴して入獄するなどして、財産を失い、有力百姓から非難されるも、小百姓から支持されて、晩年は名主をつとめるほどになった父和蔵から激しい気性を受継ぐとともに、仁義礼智信などを教えられて育ち、

膝栗毛終・・・1822＝ 9歳：

富嶽三十六景1831＝18歳：

大塩平八郎乱1837＝24歳：

適塾ホヅン・・・1838＝25歳：同志とともに、小百姓が名主相手に起こした出入を指導し、

勅進帳初演・・・1840＝27歳：

阿部正弘首座1845＝32歳：

・・・・・・1848＝35歳：堰を改修した父の功績を無視した堰世話人を糾弾するなど、父や自家への意識が強く、幕藩体制で理想とされた律儀な百姓の範疇から大きく逸脱して行く。

北斎没・・・1849＝36歳：

ペリー来航・・・1853＝40歳：自宅近くに、一族菅野氏が伊達に入植して550年を記念する開祖碑を建立、自家が総本家であることをアピール。何度か江戸に出て、世界情勢について学ぶうち、ペリー再来航の情報を得、

開国開港・・・1854＝41歳：妻と長男を離縁。*夢で東照宮神使が説いた海防策を幕府に献策すべく、代官所に添書を依頼するも拒否されると、父の直訴に倣うべく、「菅野氏先祖よりの申伝ナラビ并ニ八郎遺言」を書いて、江戸に向かい、老中阿部正弘に籠直訴。幕府の丁寧な対応に、何か連絡が来るものと期待、「自満(慢)」の一つになる。

松下村塾・・・1856＝43歳：「自満之始」で先祖の由来を説き、自家を菅野家嫡流と位置づける「菅野実記 第一」を著し、
番書調所・・・1857＝44歳：金原田村小前百姓が、士分化を望む同村脇屋泰助が領主に奉公しようとするのを止める争論を始めると、
五ヶ国条約・・・1858＝45歳：*脇屋家を取り立てたにもかかわらず恩義を感じていないと憤慨、争論に参加するとともに、家格の対抗意識と、水戸藩主徳川斉昭なら聞いて貰えるのではないかと、自ら考えをまとめた「秘書後之鑑」を、後妻ヤノの妹の夫で水戸藩士の太宰清右衛門に宛てて送り、水戸家奉公を出願。父を理想の地域指導者として描く「菅野実記 上」を著すなど、“身上市り”運動を続けるうち、安政の大獄で太宰が捕縛されかけた際、「秘書後之鑑」が発覚して、捕縛され、

安政の大獄・・・1859＝46歳：百姓ながら連座したことを“自満”しつつも、死罪の可能性に恐怖、それまでの運動が百姓の分限を超えるものであったと反省。死罪は免れるものの、遠島の刑となり、

桜田門外変・・・1860＝47歳：八丈島に送られるも、まったくくじけず、甘藷を主食とし、わらじを売って暮らしながら、
遣欧使節・・・1861＝48歳：「闇之夜汁」以降、故郷の家の相続を憂慮し、子孫に向けて百姓の生き方など、次々著述、

生麦事件・・・1862＝49歳：霊夢により、大獄批判「判断夢の真暗」、訴状「金子横取被致候始末」を書き、故郷へは「子孫心得之事」、
8月18日政変 1863＝50歳：「小児早道案内」「八丈島物語」「忠五郎に送りし書」と、立続けに送る。この間、やはり流罪となっていた京都加茂神社神主梅辻規清に出会って学び、自らの思想に磨きをかけるとともに、「八老蚕飼伝法」を書いて、島民に養蚕技術を教えて慕われるなどするうち、唯一の勅免による異例の速さで出島御免となり、

禁門の変・・・1864＝51歳：天狗党の筑波山挙兵に加わった太宰が長崎出島で自害。*帰郷したが、故郷は、代官・豪農・博徒らの結託で荒廃、百姓を救うべく武術鍛錬の{誠信講}組織して、博徒らの行動を掣肘し、

薩長同盟・・・1866＝53歳：代官に取り入る奸商による大增税に百姓らが怨みを募らせている時、一揆を呼びかける回文が出ると、15万人が参加して、多数の豪農豪商が打毀される“信達世直し騒動”となり、悪税は撤廃させるものの、博徒の言いふらしなどで、江戸や上方で“世直し八郎大明神”とのかかわり版が出回って、一揆の頭取とされ、入牢。騒動への関与は否定する一方、今までの活動によって名声が高まったと意識、“土民”としての正当性を主張するようになる。無罪訴える養子忠五郎が捕縛され、甥の安蔵は無視されるうち、

大政奉還・・・1867＝54歳：
明治維新・・・1868＝55歳：*戊辰戦争に際して、獄中で、有力百姓や代官を仮借なく糾弾する「官軍宛の仁政要求願書」を認め、官軍の福島進駐を契機に、3人とも許され、帰郷。「八老独り年代記」執筆以降も、

明治6年政変 1873＝60歳：何等かの出入事件を起こし、
佐賀の乱・・・1874＝61歳：再び1年収監されるなどして、
三つの内乱 1876＝63歳：
明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。

明治14年政変 1881＝68歳：
内閣発足・・・1885＝72歳：
初の対等条約 1888＝75歳：没した。